

第7回下川町総合計画審議会(産業経済部会)会議録

日時 平成29年12月12日(火)

18:40~20:40

場所 総合福祉センター「ハピネス」

〈森林総合産業推進課所管事務事業〉

出席者(委員): 麻生部会長、及川副部会長、高橋委員、山崎委員、中田委員、三津橋委員

出席者(町): 宮丸課長、山本主査、今主査、松本主事、大西主事補

▽施策項目「林業・林産業」

・事業名「北海道林業大学校誘致事業」

町: 事務事業内容説明

委員: 下川町でも検討委員会や誘致委員会などを作って、誘致を検討していたのか。

町: 現在まで調査を重ねており、誘致に向けて準備会等を設立したうえで、期成会を設立できるかどうか検討する。

委員: 期成会というのは民間の方と役場の職員のチームのようなものか。

町: 現在、下川町だけでなく近隣の市町村と広域連携で誘致活動できるか検討しているところ。道においては2020年設立というスケジュールが決まっているので、来年の春前後である程度の林業大学校の基本的な方針・場所が決まってくるかと思う。町としてはそれまでに期成会を設立し誘致を進めていくこととなる。

委員: ほかの市町村ではすでに誘致活動が始まっているところもある。下川町は出遅れた感があるが、他の市町村とどういったところで差別化・優位性を見せていくのか。

町: すでに誘致活動を行っている市町村は、「ここに林業大学校を建ててくれ」という要望内容であり、どういうやり方で、どういうカリキュラムで・どういう規模でという道からの要望に対して下川町はしっかりとした具体案を持って誘致していくことで、他市町村より優位性を持っていけると考えている。

委員: 校舎が下川町に建つわけではないのか。

町 : 北海道は校舎新設も含めて検討している。ただ、予算などのこともあり、既存の建物を使うことも考えられる。

委員 : なんのために誘致するのかというのが大事かと思うが。

町 : 経済効果も大事ではあるが、林業大学校で学んだ学生が卒業し、下川町または近隣市町村の林業・林産業の担い手として活躍してくれるのではないかという期待も込められている。

委員 : 林業・林産業者の中でも次世代の担い手不足は問題としてあがっている。学校の誘致というよりも人材の誘致と考える。京都府の林業大学校は京都府的にはうまくいっていないという指摘もある。卒業生のほとんどが京都府以外に就職している現状があるそうだ。学校をどう誘致するかではなく、学校で育った人材をどう下川町へ持ってくるか、道北に留められるかがポイントだと考える。逆に考えると、下川町に学校を誘致できなくとも、講師や実習などを通して学生たちと関係性を持つことで下川町に興味を持ってもらい、担い手確保にもつなげていけると思う。学生のネットワークにうまく入り込めるような提案・誘致活動をしていただければと思う。

町 : 下川町としても拠点の誘致は進めるが、道北には広大な町有林・国有林・道有林があるのでこういったフィールドを活用して林業大学校と関係性を持っていきたいと考えている。

・事業名「有害鳥獣捕獲等事業」

町 : 事務事業内容説明

委員 : 確認だが、有害鳥獣としての駆除も冬期間できるようになるということか。今現在行っている鹿1頭駆除で1万円というのも冬期間続くのか。

町 : そうなる。その代わりに、平成30年度から駆除の確認手続きが大きく変わり、より厳格なものとなった。駆除個体の受け入れ先のチェックと現場での写真が追加され、尾だけの確認ではなくなった。

委員 : つまり、駆除期間が伸び、狩猟期間に食い込むということか。

町 : その通り。

委員 : 一の橋の方で、食肉として鹿肉を利用できるか試験するとのことだが、この試験に係る予算はどれくらいか。

町 : 町では予算を持っていない。NPO法人地域おこし協力隊が事業主体で解体事業を行う予定で、猟友会などが捕った鹿を買って食肉として売ることによって収支を合わせる。また、環境未来都市推進課の事業で解体処理施設を改築する予定で、そこでは町の予算が使われている。

委員 : 他の事業者・企業者がこの施設を使うとなるとどうなるのか。

町 : NPO法人と検討中である。

委員 : 解体に係る予算は町で持っているのか。

町 : 持っていない。エゾシカ残滓を現場から冷凍コンテナ・解体施設までの運搬に係る予算は持っている。

委員 : 駆除期間をおいしい肉が捕れる時期に食い込ませてしまうと、肉としての捕り方以外でどんどん打たれてしまい、食肉として捕ることが難しくなってしまうのではないか。

町 : 猟友会などが鹿を捕って解体処理場へ持っていけば、駆除の1万円とさらに持ち込みでお金がもらえるため、食肉として使える駆除を狙う人が増えていくと考えている。まだ1年目なので、今後うまく調整できるよう検討している。

委員 : 1年やってみて、どんな偏りがでるか見てみると良いかと思う。

委員 : 食肉として利用する鹿肉について、NPO法人地域おこし協力隊は解体・加工についての研修へ行っているのか。

町 : すでに幾つかの研修へ出席している。

委員 : エゾシカの感染症なども話を聞くので衛生管理には十分に注意していただきたい。

・事業名「小規模森林バイオマス熱電併給システム実証・事業化事業」

・事業名「森林バイオマス地域熱供給システム面的拡大事業」

・事業名「熱供給システム効率化改善事業」

委員 : 面的拡大について、熱導管を通すことにより効率化が図られ、現在6基あるバイオマスボイラが例えば3基で済むというような話か。

町 : その通り。

委員 : そうすると、熱導管の工事が必要となり、更新の際にボイラの更新数は少な

く済むかもしれないが、熱導管のメンテナンスも必要となるのではないか。

町 : 今回この事業を行うことで新たな施設への熱供給が可能となる。新規だと町おこしセンターと宿泊研修交流施設や、まだ化石燃料が多いところ、例えばヨックルなど既存のバイオマスボイラ施設の近隣へ供給することによる効果も検証していきながら進めていきたいと考えている。

委員 : ボイラとボイラをくっつけるだけという話ではなく、それに伴って他の施設へも伸ばせたらという話か。

町 : 現在6基、将来的に例えば大中小と違うサイズのボイラの集約化を図ることができれば熱量の平準化も考えられ、ボイラとボイラをつなげることにより、無駄な熱を減らすことができる。ボイラは熱をあまり必要としていない時でも待機運転として30パーセントほどの出力で運転している。繋げることにより無駄な時に止めることもできるので、バイオマス資源の有効的な利用も考えられる。また、熱導管を通る温水温度が80℃ほどだと100年近く耐用可能と欧州メーカーからも確認している。ボイラ自体も欧州の方では25年ほどの耐用があることが実証されており、それぞれの耐用年数の更新も見据え検討していきたい。

委員 : 第4世代との違いはボイラ自体の違いなのか。

町 : システム面での違い。温度の低減やポンプ動力の自動制御。また、エネルギーミックス型のシステムを導入している点が違う。例えば夏場の太陽熱なども考えられる。

委員 : この4億円弱の工事費予算は何に使われるのか。

町 : それについてはこれからになる。ベースは熱電併給計画での熱導管整備費を計上しているので、これからの調査により上下することがある。頭出しをさせていただいている。

委員 : 熱導管はどこまでもつなげることが可能なのか。

町 : 基本的には可能。市街地は半径1km圏内で、熱需要の密度も欧州に比べ高く、産業利用も可能ということで下川町は優位性が高いと言われてきている。

委員 : 町長との懇談会があった時に、町長が再生可能エネルギーについて話していたが、上名寄では用水路を利用した小水力発電なども新たな再生可能エネルギーとして検討していただければと思う。前回の白紙になった熱電併給の一

件で町民の再生可能エネルギーへの関心が高まってきているので、次も新たな再生可能エネルギーについて計画していくのなら、最初から計画をオープンにして明確な情報提供のもと進めていただきたい。

町 : 議会から承認を得られればこの調査を進めていけるので、改めて年明けに町民説明会を開催し、白紙になった経緯やこれからの考え方、講演会などを交えながら意見交換会など情報提供を進めていきたいと考えている。バイオマスだけでなくその他の再生可能エネルギーについても可能性を探りながら進めていきたいと思う。

委員 : 下川町がバイオマス都市構想で掲げているエネルギー自給には、町が直営で行っているものしか入らないのか。

町 : 民間事業もすべて含めている。例えば松岡牧場の発電事業もこれに入っている。

〈環境未来都市推進課所管事務事業〉

出席者（委員）：麻生委員、及川委員、中田委員、三津橋委員、高橋委員、山崎委員

出席者（町）：田村課長、平野主幹、蓑島主幹、亀山主幹、和田主事、佐藤主事、浪岡主事、遠藤主事

▽施策項目「商工業」

・事業名「中小企業振興事業」

町 : 事務事業内容説明

委員 : 地域未来投資促進法とは何か。

町 : 地域の特性を活用して付加価値をつけ、地域への経済波及効果があるものが支援の対象になる。計画を策定して承認されると、機械や建物の設備に支援が受けられる。

町 : モノづくり事業などでパッケージ事業となれば補助の割増もある。

委員 : 町の支援制度では NPO 法人が対象になっていない。国ではメニューによって対象になる部分もある。中小企業者の信用保証制度も活用できる。中小企業的な役割を果たしている NPO 法人も町の補助対象として検討されていると思うが、現時点での検討状況はどうか。

町 : これまでも話をいただいているが、中小企業基本法に基づいているため、対象になる部分とならない部分があり、現状は対象とされない部分も多いため、町の条例とどう合わせるかという課題がある。引き続き検討していく。

委員 : 農家は個人では支援の対象にならないか。

町 : 会社法人でないと対象にならない。

委員 : 農業振興基本条例があるので、その棲み分けになるのではないか。中小企業は個人でも対象なのか。

町 : 中小企業は個人事業主も対象になる。

委員 : 調書にある財源のその他は何になるか。

町 : ほとんど出資金、中小企業の利子補給である。保証金で金融機関に預けて返ってくる。毎年返ってくるものである。

委員 : 預けたら何かに使えるのか。

町 : 出資をする際の金融機関の担保になる。今まで担保がなくなったなどはない。

委員 : 指標推移の目標値事業者数、実績値みたいなものは出てきているのか。

町 : 平成27年度と平成28年度は実績値、平成29年度は現状値、平成30年度は目標値である。

▽施策項目「商工業」

・事業名「企業及び誘致企業連携事業」

町 : 事務事業内容説明

委員 : 関心を持っていただいている4~5社はどのような企業なのか。

町 : IT会社や通販会社などで、通販会社の場合は、通販事業を安定させるために結婚相談所をやることで、通販が活用するための引き出物へ繋げていこうという会社もある。全国に拠点を置きたいと考えている社長が、下川町でモデル的な拠点を作りたいということで来ている。他には野菜の加工を行いたいと視察に来ている。具体的にはこれからである。まずは地域の状況を知っていただきたい。

委員 : 建物を新しく作るのか、既存の建物を使うのか。

町 : 複合的に使える施設を建設するという考え方もあるが、なるべく既存の建物を改修してやっていきたい。財源の関係もあるので施設の有効利用を考えていき

たい。先進地は徳島県の神山町がある。地域の古民家などを使いながら行っている。

委員 : 企業誘致を進めていくことは素晴らしいことだと思う。神山町は地元でいた人と新しく入ってきた人の接点がない。新しく入ってきた企業などが独自にコミュニティを作っている。人口が増えることは良いことかもしれないが、軸を持って企業誘致も進めていかないといけない。関心のある企業は下川らしい形を求めていると感じている。地域に資本参画するのは大変だと思う。

町 : 神山町は IT 合宿で入ってきて、地域とは関わりがないという話を聞く。下川では、まず視察の段階で地域の事業者さんに会ってもらい、一緒に地域を作っていきたいという話をしている。総務省が行なったアンケートでは、下川町に興味があるという会社があるので、そこの連携を考えていきたい。

委員 : 下川町に登記するという条件はあるのか。

町 : 最終的には登記していただければありがたい。

委員 : 下川の課題や資源をアプローチしていくことは良いことである。タノシモカフェの企業版などがあれば良いと思う。一般町民の方も接する機会があると良いと思う。来ていただける企業が地域に貢献できると考えていても、地域では求めている場合もある。また、一般町民の中には、コモレビに行きづらいという声もある。広報などを通じて周知して欲しい。最初のハードルを低くして、来ていただける仕掛けが必要である。

委員 : 野菜の加工会社と連携するなら、地域の農家との連携が考えられるがどのような条件が良いか。農家の方にお聞きしたい。

委員 : 農協を通すのか、個人なのかによっても変わっていく。

町 : 詳細はこれから話を詰めていく。農協が窓口になると思うが、今は進出したいという段階である。

委員 : 下川の農業は不利だと思う。そこに勝機を感じる理由を聞いてみたい。農家としても協力できる部分は協力していきたい。農協には誘致のノウハウがない。来ていただけるのであれば、利益を出していただきたいし、農協は農協の仕事があるからそちらをやって欲しい。

委員 : お互い良い関係でなければいけない。

委員 : せっかく来てくださる方には話を聞きたい。

委員 : 農家側も意識改革をする新たなステージになるかもしれない。

町 : 1社の方にはタイミングが合ったため、タノシモカフェに参加していただいた。
下川への想いを強くしたと話をいただいた。

▽施策項目「観光創造」

・事業名「観光施設等管理事業」

町 : 事務事業内容説明

委員 : 森林総合産業推進課にもお願いしたが、一般町民の方は、各事業の内容があまり分からないのではと感じている。このまま進むとマイナスだと思う。サテライトオフィスなどは早い段階からいろんな形でオープンにしていく必要がある。町民が理解して大多数が理解すれば、議会の反応も良いと思う。

委員 : 役場はどのように対応したら良いと思うか。

委員 : 若い人の感覚は分からないが、様々な町民がいるので、施策をどの層の支持を取ったら良いのかは、施策や企業によって違う。一つのアクションでは難しい。

委員 : 野菜加工には、しいたけ加工は含まれるのか。

町 : 具体的な話はこれからである。

委員 : 地域間交流施設の管理棟は、平成30年度に整備するとなっているが、現実味はあるのか。

町 : 補助事業などを見つけて早いうちに整備していきたい。

町 : 利活用を促進できるようにやっていきたい。諸条件については指定管理者の意見や利用者の意見を聞きながら進めていきたい。ワックスルームやサイクリングなども増えていくので、多面的に考えて整備する必要がある。

委員 : 管理施設の老朽化した施設の更新には、五味温泉は入っているのか。

町 : 入っている。年数が経っている施設が多いため、修繕しながら運営している。いずれかの時期には大きな改修が必要だと思っている。

委員 : 五味温泉については、平成27年度に改修の実施設計まで終えている。他にも五味温泉での要望があると思うが、和式便器を洋式に変えて欲しいという部分がある。宿泊客のことを考えると早急に対応する改修工事だと思う。

町 : 指定管理者と協議を進めており、サービスの向上に繋がる部分から進めていきたいと思う。

委員 : お客様へのサービスは努力しているが限界がある。施設の改修もサービスの向上に必要があると感じている。

委員 : 宿泊研修交流施設はこの調書の中に入らないのか。

町 : 事業が別なので入っていない。今後、含めた方が良いか考えていく。

委員 : 公共施設で人が宿泊する場合の洗剤は、環境に配慮した石鹼洗剤にするように働きかけをした方が良いと思う。エコハウスに泊まって合成洗剤が置いてあると、環境モデル都市や環境未来都市を期待して下川に来た方が残念に感じると思う。町の持続可能な暮らしが体感できる施設になれば良いと思う。

町 : 経営なので難しい部分はあると思うが、環境未来都市推進課の所管の施設全体に情報を伝えていきたい。

委員 : 2年前から話が出ているが動いていない。環境に配慮したものと一般のもの、両方を置いても良いかも知れない。

委員 : 使い慣れてない人には泡立たなかったりするので、洗えているのか不安だったりもする。

委員 : スウェーデンのベクショーは、朝のバイキングでもオーガニックのマークがついている。

町 : 宿泊研修交流施設では、フロントでアメニティなど必要なものを提供するようにした。

委員 : 年間これだけ購入するから値段を安くしてという方法もある。使い勝手が悪くても、環境に優しいから置いてあるなどのアピールをしたら良いと思う。